

日本における通信制美術教育の歴史的変遷 —近世後期から平成初期まで—

The Historical Transition of Correspondence Art Education in Japan
from the Late Early Modern Period to the Early Heisei Period

人文科学系／美術教育／論文

芸術文化科学研究科

井出 温美

Atsumi Ide

◎研究目的

本論文は、近世後期における文通形式の学習を起点に、どのような系譜を経て現在の学校通信教育と社会通信教育に繋がっていったのかという歴史的系譜を詳らかにするとともに、教育法・受講者像の変遷を「美術の通信教育」の視点から解明するために執筆した。

◎第1章 文通形式の通信教育の系譜

江戸時代後期の通信教育は、「入門」の手続きが必要であり、教授者とすでに関係性を築いているか、教授者と親しい者に仲介を頼む必要があったため、受講できる者は限られていた。この時代における文通形式の美術教育の典型例として、文人画家たちのやりとりが挙げられる。田能村竹田は、江戸にいる谷文晁から画を学び、自らも書簡を用いて高橋草坪に助言を与えた。近世後期の美術教育は秘事口伝が基本となるが、優れた文才を兼ね備えた文人画家たちの営みによって、書簡や本が残ることとなった。

◎第2章 講義録形式の通信教育の系譜

明治期に入ると、流派ごとに受け継がれてきた画法を総体的に編纂した講義録が誕生し、様々な社会階層に学習環境が開かれた。明治期の講義録で誕生した「質疑応答」と「習作画の添削機能」は、展覧会が加わった形で、昭和初期の講義録に受け継がれることとなる。受講者は、講義録に「質疑応答」が掲載されることで、自分が意図していない課題に気づくことができるようになった。また、昭和初期の講義録では、投稿欄や展覧会を機に、同じ郷土に住まう者たちの繋がりが生まれ、地方支部主催の学習会や展覧会などが行われていることが確認できた。

◎第3章 学校通信教育と社会通信教育の歴史

明治から戦前にかけて行われてきた講義録形式の学習は、学校と事業者の区別なく行われてきたが、戦後、学校教育法と、社会教育法が制定されたことで、現在の「学校通信教育」と「社会通信教育」の概念が形成されていった。学校通信教育は、卒業時に社会的な学習履歴となる学歴が付与される代わりに、スクーリングの実施が義務付けられた。また、文部省の許可を得ることが必要となることから、学習内容に一定の制約がある。一方、社会通信教育は、水墨画やデッサンといった1テーマ型の講座が開講され、スクーリングの実施が義務付けられていないといった違いがある。

◎第4章 学校通信教育

—武蔵野美術大学通信教育課程を題材に

学校通信教育における美術教育の具体的な事例として、武蔵野美術大学通信教育課程の歴史、学生像、教授法を振り返り、学校通信教育における美術教育の分析を行った。短期大学通信教育部を開設した1949年当時は、現役世代を中心としていたが、時代を重ねるにつれ、高齢者や女性にまで学習の層を広げていった系譜は、大学通信教育の全体像と連動した形となる。また、デザイナーという職種に対する人気が高まり、学びたい者が増えていくにつれて、デザイン科のコースが充実していった過程を確認できた。

◎第5章 社会通信教育

—講談社フェーマススクールズを中心に

美術教育を行う社会通信教育事業者として、最も長い歴史を有する講談社フェーマススクールズ（以下、KFS）を取り上げ、歴史と受講者像、教授法を調査し、社会通信教育で行われてきた美術教育の内実と課題を明らかにした。KFSは、出版社との強いコネクションと、ビジュアルを重視した指導法を特徴としていたが、2014年に新規受講生の募集を停止した。インターネットの発達により、これらの価値が低くなったことが主な要因であると考えられる。出版社が母体となり、魅力的な講師を呼べる特性を全面に活かしつつ、募集方法や授業料の支払いシステムの改善など時流に合わせた現代化を行っていれば、意義ある教育機関として存在し続けたのではないかという問題提起を行った。

◎結論

本研究により、美術系通信教育の「教育方法」と「社会的二一ズ」の変遷が明らかになった。メディアの発展により、教本が進化し、戦後に入ると、作品の添削手法も確立していった。受講者は美術愛好者や作家志望の者たちが多く、学校教育や美術史の観点からは名前が残らない人々の学習手法を知ることによって、これまでほとんど研究が進められてこなかった美術教育の社会的二一ズの歴史的変容が明らかになった。

また、第1章と第2章では、「近世と近代の連続性と断絶」が明らかになった。近世にあたる江戸時代と、近代にあたる明治時代は、庶民階級の学習意欲という観点から連続性が見られる一方で、学問へのアクセシビリティという観点からは、封建制度による断絶があったといえる。